

パネルディスカッション3

「消化管狭窄への挑戦」

司会 糸井 隆夫（東京医科大学消化器内科）

安田 一朗（富山大学第三内科）

消化管狭窄の原因は良性悪性多岐にわたるが、近年の内視鏡治療の進歩により、内視鏡治療が第一選択となることが多い。内視鏡治療としてはバルーン拡張やプラスチックあるいはメタルステント留置がしばしば選択されるが、近年では生体吸収型のステントも登場している。一方、最近では狭窄そのものの拡張ではなく、狭窄をショートカットするような超音波内視鏡下胃空腸吻合術等の新しい試みも行われている。本セッションでは最新の知見も含めた消化管狭窄治療の最前線について議論したい。多くの応募を期待する。